

空港の町・成田が抱える 農村と住宅地

成田市の住宅街に住む人たちの多くは、成田空港が都心で勤務している。朝6時半、通勤客が集まってくる駅の前で、市議会議員の二期目を務める会津素子さんが活動レポートを配布していた。

「定例市議会は年4回、そのほか臨時議会があるのですが、定例

市議会の後には必ずこうやってレポートを配布しています」と会津さんは言う。

成田国際空港を抱える成田市は、もともとは御料牧場もあった農業の盛んな地域だ。「特に最近是有機農業を志す若者が増えてきています。一方で、耕作放棄地も多く、空き家問題や地産地消の推進など、課題は少なくありません。人口が増え学校を新設する地域、人

口が減り統廃合が進む地域、同じ市内でも偏りが生じているのも残念です」。農村と市街地が並立する成田市の環境と調和した町づくりが、会津さんの今の関心事だ。

会津さんは、かつて舞台俳優を目指して修行していた。ある時、ボランティアを兼ねて訪れたインドで世界観が変わる経験をした。「道端で行き倒れている人や物乞いの子どもが日常の一部となって

いることが衝撃でした。マザーテレサの「死を待つ人々の家」や関連の児童養護施設でボランティアをして、温かい食事や家が決して当たり前ではないことを初めて知ったんです。でも、現地の人たちはとても生き生きしていて、決して「かわいそう」とは思いませんでした」とそのときの経験を振り返る会津さん。海外を舞台に働いたという思いから、青年海外協力

活動レポートの配布は、定期的に行っている。中にはレポートを受け取ってくれるだけでなく、話し掛けてくれる人も



他会派の議員と合同勉強会の準備。「まさに異文化」という政治活動では、先輩の議員たちから学ぶことも多い

協力隊で培った解決力で 故郷の町をしあわせに

海外を経験したことで、日本の課題に気付くとともに、故郷の良さを再確認する人も多い。故郷をより良くしようと考えたとき、できることは何か。会津素子さんは、それまで自分とは縁遠いと思っていた地方自治の道に踏み出した。



成田市議会議員
会津 素子さん

隊への参加を目指すことにした。

とはいえ、協力隊に参加するには、特定の分野での知識や技術が必要だ。そこで会津さんは、仕事をしながら通信教育で保育士の資格を目指した。日本の児童養護施設やカンボジアの児童養護施設ボランティアなどの実地経験を積んで資格を取得し、無事、青年海外協力隊としてエジプトへ。現地ではストリートチルドレンの余暇活動を担当した。

2年間、一度も帰国せずにエジプトで子どもたちと向き合った会津さん。充実した日々だったが、乾燥した気候に「日本の緑が恋しい」と感じていたという。

だが、帰国して目にしたのは、かつて緑豊かだった里山が造成さ

れた住宅地と、疲れ切った表情の人々があふれる通勤電車、後を絶たない自殺や虐待死のニュースだった。日本社会の「命の軽さ」に漠然とした疑問を抱く中、杉並区の区議会議員を務めていた友人に誘われて地方選挙対策研修に参加し、「社会に不平不満を言うだけでなく、自分の力で変えていかなければ」と地方政治の世界に飛び込むことを決めた。

「政治は身近で楽しい」 多くの人に伝えたい

「所属政党も資金も地元での人脈もない手作り選挙でしたが、協力隊時代のたった一人で、手元にあるもので解決する」という経験が生きたと思います。今年4

月の選挙では一期目で育った地元のネットワークを生かして無事、再選された。二期目となった現在は、地元の有権者と連携して地域社会を変えていくため、いくつかのテーマを掲げて積極的に活動している。

「その一つが、空き家の活用です。成田市には多くの空き家があり、そこに住みたいと思っている若い世代もたくさんいます。空き家と若い世代をマッチングできれば、少子高齢化対策にもなると思うのです。8月には、その考えを実践するため、自ら5年間空き家だった市内の住宅に移り住んだ。「引っ越して気付いたのは、家は人が住まなければ傷んでいくということ。空き家を『地域の資源』と捉

えて、地域活性化に役立てたいと考えています」

現在、会津さんは有機野菜の学校給食での活用や、動物愛護センターに引き取られた犬猫の里親探し、地元農産品マーケット、里山キャンドルナイトなど、楽しみながら社会を変えていく活動に精力的に取り組んでいる。

「私自身もかつてはそうでしたが、政治を他人事、つまらないものだと思っている人は多いと思います。でも、実際はとても身近なこと、楽しいことだと知ってほしいんです」。会津さんは地元の成田市をもっと良くするために、多くの人たちが政治に関心を持つきっかけとなるような楽しい活動を続けていきたいと強調した。



地元を回って、活動報告も兼ねた聞き取り調査を行う。住民のニーズをくみ取るのも、議員の大切な役目だ



会津さんの一日

- 5:00 起床
- 6:30 駅前で活動レポート配布
- 9:00 地元野菜を扱うカフェで朝食
- 10:30 市議会に登庁
- 11:00 臨時議会に備えた議案説明会
- 12:00 他の市議と超党派勉強会の打ち合わせ
- 13:00 昼食
- 14:00 地元有権者を戸別訪問し、レポート配布やヒアリング
- 18:40 帰宅、愛犬モロと散歩
- 19:30 地元農家のホームシアターで、週末に上映会を開催するドキュメンタリー映画の試写会
- 23:00 帰宅、就寝

議員控え室で資料に目を通す



通ったカフェで情報提供をしにくる人も



会津 素子 AIZU Motoko
1978年、東京都出身。小学生の頃、成田市に転入。役者として舞台やテレビで活躍後、一人旅とボランティアの経験を経て児童養護の道へ。保育士資格を取得し、青年海外協力隊でエジプトに派遣される。帰国後、介護施設職員を経て、2011年、成田市議会議員に当選。議員としての活動の傍ら、協力隊での経験を伝える出前授業も積極的に行っている。